

【自主的・主体的な検証(事前評価)結果】

農山漁村地域整備計画の策定にあたっては、計画主体が「目標の妥当性」「整備計画の効果・効率性」及び「整備計画の実現可能性」について、自主的・主体的に検証(事前評価)を行い、整備計画と事前評価結果を公表するものと定められている。(農山漁村地域整備交付金実施要綱第5の1)

「目標の妥当性」「整備計画の効果・効率性」及び「整備計画の実現可能性」について、以下の観点で自主的な事前検証を行った結果、妥当と判断した。

なお、交付期間終了後の評価方法については、対象事業を掌握する担当課(水環境保全課)において、整備計画期間内の各地区における集落数及び処理区数を把握し、評価する。

自主的・主体的な検証(事前評価)チェックリスト

項目	判定	自主的・主体的な検証の内容及び結果	
1 目標の妥当性			
関連計画等との整合性	○	(検証内容)	食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画、及び鳥取県生活排水処理施設整備構想との整合性が図られていること。
		(検証結果)	・食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画、及び鳥取県生活排水処理施設整備構想との整合性が図られている。
地域の課題への対応	○	(検証内容)	本県の下水道等の抱える課題と整備計画の目標が適合していること。
		(検証結果)	・今後の課題である「施設の統廃合と接続」、「長寿命化などに関する計画の策定」と、整備計画の目標が適合している。
2 計画の効果・効率性			
整備計画の目標と評価指標の整合性	○	(検証内容)	整備計画の目標と評価指標の整合性が図られていること。
		(検証結果)	・整備計画の目標と評価指標の整合性が図られている。
評価指標の明瞭性	○	(検証内容)	定量的指標設定の考え方や定義、計算式等が明記されていること。
		(検証結果)	・定量的指標設定の考え方や定義は明記されている。 ・本整備計画の定量的指標の計算式を明示している。
			【定量的指標①について】 ・既存汚水処理施設の統廃合や施設更新を行う12地区は、汚水処理能力の低減を防止することが整備目標であり、「現況の汚水処理能力をおおむね維持する」ことを定量的指標とすることは妥当と判断する。 ・なお、人口減少を考慮して計画人口を見直し、これに基づき計画汚水処理能力を当初整備時より減じている地区については、見直し後の計画処理能力を「現況汚水処理能力」とすることが妥当である。
目標と事業内容の整合性	○	(検証内容)	効率的な目標達成の観点から、対象事業に掲げた各事業の実施が必要と認められること。
		(検証結果)	・目標達成のために実施が必要な事業であると認められる。
事業の効率性	○	(検証内容)	対象事業に掲げた事業地区毎に、すべての効用がそのすべての費用を償うと認められること。(予算補助事業は除く)
		(検証結果)	・費用対効果(総費用総便益比)が求められる地区については算定を行い、すべての効用がそのすべての費用を償うと認められている。
3 計画の実現可能性			
円滑な事業執行の環境	○	(検証内容)	周辺住民等との合意形成や市町村の協力体制など、円滑な事業執行のための環境が整えられると見込まれること。
		(検証結果)	・周辺住民の合意が得られている。
地元の機運	○	(検証内容)	受益農家及び市町村から、負担を含めた事業同意が確実に得られると見込まれること。
		(検証結果)	・受益者負担が伴う地区については各戸から事業同意を得ている。